

# 釣り文化振興モデル港の苫小牧港において有料試験開放を開催！

北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課

令和3年11月3日、釣り文化振興モデル港の苫小牧港東港区の内防波堤(A)で、73人を集め有料試験開放が行われました。

国土交通省港湾局は、観光資源としての港湾における釣り施設や既存の防波堤等の利活用を進めており、地域の関係者による地方創生を目的とした釣り文化振興の取組が進められている港湾を「モデル港」として募集し、令和2年8月苫小牧港を「釣り文化振興モデル港」として指定しております。

これまで、地域合意形成の場となる苫小牧港海釣り施設協議会の設置、令和3年7月には施設を安全に利用するための事業や利用促進のための事業を行う一般社団法人苫小牧港釣り文化振興協会も設立され、管理棟等の施設整備も進めていました。また、令和3年9

月には防波堤から釣り人が落水した状況を想定した救助訓練も実施されました。

新型コロナウイルス感染症の拡大といった状況下においても準備を進め、今回、いよいよ有料試験開放を迎えました。これまで、様々な課題や困難がありましたが、日本釣振興会北海道地区支部や苫小牧港管理組合をはじめとする、関係者の皆様のご尽力があり、ここまで至ることができたことと存じます。

有料試験開放前の開会式では、日釣振本部常務理事の岡田信義氏から祝辞、日釣振北海道地区支部長の地田哲哉氏より挨拶があり、また早朝からの開放であったにも関わらず、親子連れの姿もありました。

来年4月の本格開放を目指し検討を進めており、開放後は皆様のご来場を心よりお待ちしております。



防波堤上の釣り人



釣果

